

山上の説教から学ぶ (33) : 「心配症の対処法」 最終回

メッセージノート (2021. 10. 3)

マタイ 6:33-34 ですから、神様の事をいつも第一にきなさい。そうすれば、衣食住は天にいらっしゃるお父様が必ず面倒みてくださいます。こういうわけで、明日のことを心配する必要はありません。いつでも、その日その日を精一杯生きればよいのです。(現代訳)

神の国と神の義とは、何か？

- ・ 「神の国」という表現には、神の支配という意味が込められている。私の人生は、誰のものか？誰のコントロールの下にあるのかということがここで問われている。
- ・ 人生の「全て」の領域において、神の御心が遂行されているか？神に全てのことを任せる時、心は平安に満たされるが、もし一つでも神に任せることに躊躇するなら、心は不安に陥る。
- ◇ 今一番不安に感じていることはなんだろうか？もしかしたら、それは神に任せていない領域かもしれない。

第一にきなさい

- ・ 「第一にきなさい」とは、全身全霊をもって求めると言う意味。この言葉に含まれるニュアンスとしては、いくつかある選択肢の中から、最も重要なものを選ぶこと。人生には、今やらなければならないと思われるタスクがいくつもあるが、その中で、今何を選択するのかということが、非常に重要になってくる。
ルカ 10:41-42 マルタ。あなたは、あまりにも多くのことに気を遣いすぎているようです。⁴²でも、どうしても必要なことはただ一つだけです。マリヤはそれを見つけたのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。
- ・ この「一つだけ」と言っていることが、今学ぼうとしている第一にするという意味である。
- ・ 神の御心を行おうとする時には、そこに選択があるということだ。では、どのようにしたら正しい選択ができるのか？どうしたら、正しい優先順位をもって、なすべきことに集中することができるのか？

一日一日を生きるとは、どういうことか？

- ・ 今日という日を一単位として過ごす : *ヨハネ 11:9* 「一日には十二時間あるではないか」。
ここに今日の分、今日取り組む分があるという。明日の分のことは、今日思い巡らす必要はない。予習も、貯金もいらない。明日には明日の分があると。
- ・ 今に集中するために、昨日や明日を背負いこむことはやめる。今与えられている十二時間に集中する。

今日に集中することが必要な二つの理由

1. 過ぎ去った過去のことをいくら後悔したところで、何の解決にもならないから：成功者の生き方
 2. 将来のことは心配し、思い煩ったところで、明日のための何の準備にもならないから：荒野でのマナの例
- ◇ あなたはどんな「マナ」を受け取ってきただろうか？
- ・ 将来について覚えておくべきこと：
 - a. 神よりも先だって動いてはならない。雲の柱と火の柱が動いた時に、民はそれに従った。それが昼であろうと、真夜中であろうと、神の導きに従った。
 - b. 神は私の心の動きさえも前もって知っておられる。→ *マタイ 17:25-26*

1. 神との会話

- ・ 今を生きるとは、毎日起こって来るチャレンジを神のところに持っていき、神との会話をする機会とすること。なぜなら神がその問題を与えているのは、それが今私の学ぶべき人生の大切な課題であるからだ。
1 コリント 10:13 あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。
- ・ 神は、逃れの道を用意されることなしに、試練に合わせることはない。それゆえ、問題が起こってくるたびに、神からの力を受けつつ、ここで私は何を学ぶことを神は願っておられるのかと尋ねたらよい。

2. 自分との会話

- ・ 自分の信仰に向かって、また自分自身に向かって語りかけることを学ぶ。「信仰とは、自分自身のこと、自分の信仰のことについて、自分自身と会話をしている人のことであると思っても間違いない」(ロイド・ジョンズ)。
詩篇 42:5, 11 わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。
- ・ このような時間をどこまで持てるかということが、人生において現在を生きる、現在に集中できる生き方なのだ。

3. 葛藤することは間違っていない

- ・ *詩篇 127:1-2¹* 【都に上る歌。ソロモンの詩。】主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなしい。主御自身が守ってくださるのでなければ、町を守る人が目覚めているのもむなしい。² 朝早く起き、夜おそく休み、焦慮してパンを食べる人よ。それは、むなしいことではないか。主は愛する者に眠りをお与えになるのだから。(新共同訳)
- ・ 安定した人間の社会生活には、背後に神の守りがあり、そのことを認識して生きていくようにと教えるが、神に信頼を寄せるよりも思い煩い、今に集中できず、結局失敗する現実→「焦慮してパンを食べる人」。そんなことを繰り返している私たちだが、神はどのように助けられるのか？
- ・ 「愛する者」(エディデア)の由来：神はどんな失敗をしても、セカンドチャンスを与えられる。
2 サムエル 13:24-25 ²⁴ ダビデは妻バテシバを慰め、彼女の所にはいって、彼女と共に寝たので、彼女は男の子を産んだ。ダビデはその名をソロモンと名づけた。主はこれを愛された。²⁵ そして預言者ナタンをつかわし、命じてその名をエディデアと呼ばせられた。
- ・ 葛藤こそ我が人生(ローマ書 7-8章：無力な人間に働く聖霊の力)
ローマ 8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。
- ・ 聖霊なる神が、私たちの言葉にならない成長への苦しみ(葛藤)を見て、心を砕いて(うめきながら)とりなしをしてくださっているという。
- ・ この葛藤こそが全てのことが益となるための過程なのである。あなたが今葛藤していることは、何だろう。それは、必ず益となると神は保障されている。

まとめ

- ・ あなたの人生で、神にコントロールを委ねることに躊躇を覚えていること(領域)は何か？
- ・ 一日だけを生きること集中するためにはどうしたらよいだろうか？
- ・ 分かっているけど心配してしまう私たちだが、その現状をどのように神の前に持っていくことができるだろうか？